

98. 一般システム理論 (general system theory) に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 一般システム理論の「一般」とは、ソーシャルワーク理論に一般的に適用されるという意味である。
- 2 利用者に生じている問題の原因を、利用者の生活史に探る考え方を取る。
- 3 システムを構成する諸要素は、ここに独立性を保つものである。
- 4 ピンカス (Pincus, A.) とミナハン (Minahan, A.) は、社会福祉活動を分野横断的にとらえて、システムモデルを提唱した。
- 5 ジャーメイン (Germain, C.) とギッターマン (Gitterman, A.) が唱えたエコロジカル・モデルは、利用者の対処能力は、ソーシャルワーカーのレスポンス次第としている。

99. 事例を読んで、H社会福祉士が、問題を整理するにあたり依拠すべき、システム理論に基づいた視点として、適切なものを2つ選びなさい。

(事例)

Jさん(21歳、女性、発達障害)は、母親(50歳)と3年ぶりに同居を再開した。従来、育てにくさから同居を拒まれ単身生活を送っていたJさんにとっては念願の同居だったが、今までのわだかまりや、母親が仕事疲れからJさんに家事を命令することもあり、けんかが絶えない日々を送っている。発達障害支援センターのH社会福祉士は、母親から相談を受け、問題を整理することとした。

- 1 母と子の双方に責任があると見る。
- 2 母と子の相互関係のあり方に援助の焦点を置く。
- 3 Jさんの発達障害に問題があるためその治療に努めるべきと見る。
- 4 Jさんが母の命令に従えばよいことと見る。
- 5 Jさんと母の関係を修復し調和を目指す単に、何ができるかを検討する。

100. 実践モデルとアプローチに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 問題解決アプローチによると、援助の過程は相互に関連した6つの要素から成っている。
- 2 心理社会的アプローチは、機関の機能を重視する機能派モデルに属す。
- 3 課題中心アプローチは、利用者が危機から脱する方法を、相談援助職が助言・指導するものである。
- 4 危機介入アプローチは、利用者が危機から脱する方法を、相談援助職が助言・指導するものである。
- 5 行動変容アプローチでは、利用者の問題行動が起こる原因や動機を突き止め、その変容を図ることに努める。

101. 次のうち、治療モデルの特徴として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 人と環境の交互作用
- 2 コンピテンス
- 3 直接的因果関係
- 4 ナラティブ重視

5 ポストモダニズム

102. ラップ (Rapp, C.) とゴスチャ (Goscha, R.) が精神障害者の支援に活用した「ストレングスモデルの6原則」の解釈として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- 1 「精神障害者はリカバリーし、彼らの生活を改善し質を高めることができる」という原則から、クライアントの心身の機能回復のため医療ケアに専念した。
 - 2 「焦点は欠陥ではなく個人のストレングスである」という原則から、クライアントが抱える不安や課題について支援者が把握する必要はないと考えた。
 - 3 「地域は資源のオアシスである」という原則から、クライアントがどこに住んでいても、服薬や職業リハビリテーションなど画一的な精神保健サービスを受けられるよう制度を整えた。
 - 4 「関係性が根本であり本質である」という原則から、専門職はクライアントに対して指導的立場に立つことを説いた。
 - 5 「我々の仕事の場所は地域である」という原則から、入院治療中心であった支援を地域生活支援に移行していくことを提案した。
103. インテークに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。
- 1 相談者と相談援助職が、相談援助関係の契約を交わす段階でもある。
 - 2 初回の顔合わせのため、主訴は聞き取ろうとしなくてよい。
 - 3 事前評価と呼ばれる段階である。
 - 4 相談者への心理的配慮として、事務的な受付に徹することが求められる。
 - 5 支援の終結までをも見通した情報収集が求められる。
104. アセスメントに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。
- 1 国で定めた標準様式を使って行う。
 - 2 クライアント以外からの情報収集は行わない。
 - 3 クライアントの家族関係の情報は収集しない。
 - 4 適切な情報を得て組織化することが重要である。
 - 5 アセスメントの結果をクライアントに提示しないことが原則である。
105. 事例を読んで、この相談援助の過程に該当する用語として、正しいものを1つ選びなさい。
- (事例)
- 自閉スペクトラム症の診断を受けている K 君 (小学4年生) と母親の L さんは、1か月後にやってくる冬休みの過ごし方について、放課後等デイサービスの児童発達支援管理責任者 (社会福祉士) と面談を行った。児童発達支援管理責任者は事前に1日スケジュール案を作成し、用紙にまとめたものを親子に見せながら説明した。すると K 君から「都道府県かるたをしたいと思います」という要望があったので、「午前中の学習時間のプリントが終わったあとに、職員と一緒にかるたをしようか」と返答し、1日のスケジュールの中に「都道府県かるたを1回する」と書き加えた。それを確認した K 君は、とても嬉しそうだった。

- 1 モニタリング
- 2 アセスメント
- 3 プランニング
- 4 エバリュエーション
- 5 インターベンション

106. 相談援助の過程における経過観察（モニタリング）と評価に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 モニタリングとは、サービス調整機関が支援の実施機関を監視することである。
- 2 モニタリングでは、新たなニーズの発生に気づくことも求められる。
- 3 モニタリングは、守秘義務を順守するため利用者と相談援助職の二者間で行われる。
- 4 評価は、相談援助職の所属長が客観的に行うものである。
- 5 計画通りの進捗状況ではないと確認された場合は、利用者の行動の修正を図ることがモニタリングや評価の機能である。

107. U児童養護施設では、今年の3月に4名の児童が退所した。

次のうち、退所後3か月が経過した段階での児童のアフターケアに関する考え方として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 アフターケアを行うのは、退所児童が20歳に達するまでの期間である。
- 2 中学を卒業後に自立援助ホームに入所したMさん（16歳）に関しては、本人から近況について電話で話を聞くことができているので、自立援助ホームの職員から話を聞く必要はない。
- 3 8月にU児童養護施設に退所児童が集まる会を企画し、4名それぞれに案内した。
- 4 退所児童についても支援記録を残すようにしている。
- 5 退所後の相談窓口として来所と電話の2種類の方法を伝えてあるので、何も連絡がない児童に関しては順調に生活していると判断する。

108. 援助関係の形成方法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 感情の転移とは、援助の過程で援助者がクライアントの感情に影響され、葛藤や心理的抵抗が生まれることをいう。
- 2 自己覚知とは、自分がこうあるべきという考えとあるがままの自分が一致している状態をいう。
- 3 ラポールとは、援助者とクライアントの間に作られる、相互の信頼や理解に基づく関係をいう。
- 4 パターナリズムとは、立場の強いものが立場の弱いものの意志に基づき、その権利を守るために介入や干渉をすることをいう。
- 5 面接技法における自己開示とは、クライアントが自身の経験や感情を援助者に開示することである。

109. 面接技法に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 I（アイ）メッセージとは、視線を活用したメッセージのことをいう。

- 2 感情の反映とは、クライアントが表出した感情を援助者が同じ方法で表出し直すことである。
- 3 相づちは、クライアントの問題状況への対応に関してソーシャルワーカーの価値判断を伝える場合に有効である。
- 4 言い換えは、クライアントの発言からクライアントの気づきを促す場合に有効である。
- 5 開かれた質問とは、クライアントは「はい、いいえ」で答えることができる質問のことをいう。

110. ケアマネジメントの過程であるケアプラン作成の留意点に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ケアプランには、利用者の要望をそのまま反映させる。
- 2 介護保険法では、ケアプランは必ず介護支援専門員が作成することになっている。
- 3 ケアプランの内容を検討するサービス担当者会議の参加者には、利用者と家族も含まれている。
- 4 ケアプランの見直しは3年に一度なので、利用者の3年後までの生活を見据えて作成する。
- 5 利用者本人のニーズが明確でない場合、代わりに家族のニーズをケアプランに盛り込む。

111. ネットワーキングにおける次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ネットワーキングでは、地域住民を除くフォーマルなサポートで組織化する。
- 2 ネットワークを形成する際、クライアントを取り巻く様々な環境を含めたニーズを総合的にアセスメントする。
- 3 連携時には、職種間における立場の優位性から、支援のリーダーを決める。
- 4 ソーシャルサポートネットワークを形成した後は、メンバーを固定化する。
- 5 連携時には、行政区域に従ってネットワークを形成する。

112. 事例を読んで、地域包括支援センターのA社会福祉士の対応として、適切なものを2つ選びなさい。

(事例)

Bさん(77歳、女性)は、同じアパートに住む一人暮らしのCさん(83歳、女性)のゴミ出しや簡単な買い物などの手助けをこの数年間してきたが、2週間前から、Bさん自身が体調を崩して、これまでのようにCさんの世話ができなくなってしまった。A社会福祉士は、最近似たような相談事例が、この地域でいくつか報告されていることが気になった。

- 1 Bさんの負担を考えて、これ以上Cさんに関わらない方がよいとBさんに助言する。
- 2 今後一人暮らしが難しくなってくるとCさんに伝え、一緒に施設入所を検討する。
- 3 Cさんのエコマップを作成する。
- 4 地域住民に呼びかけ、Bさんに代わりをしてくれる人を探す。
- 5 地域の一人暮らし高齢者の生活課題について、民生委員や自治会役員から聞き取る場を設ける。

113. 地域ケア会議に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 地域ケア会議では、住民参加を原則とし、住民の意識調査や介護保険の給付分析を行い、市内の量的なニーズを把握する。
- 2 地域ケア会議の構成員は、行政職員や介護支援専門員、保健医療関係者で構成され、民生委員や

住民組織等の参加は想定されていない。

- 3 地域ケア会議は、地域課題を解決することを通じて関係者のネットワーク形成や資源開発につながる。
- 4 地域ケア会議で検討した支援方法は、個人情報保護の視点から関係者で共有することは避ける。
- 5 地域ケア会議の目的は地域課題の抽出にあり、個別のケース検討はできるだけ行わない。

114. 事例を読んで、地域包括支援センターのE相談員（社会福祉士）の対応に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

（事例）

地域包括支援センターのE相談員は一般介護予防事業として単身男性の料理教室を担当した。講師は管理栄養士に依頼し、自分は教室の運営担当として参加していた。教室を初めて数回が経ち、参加者同士の交流も行われるようになり、軌道に乗ったように思えたところ、グループ内で気になる動きがあった。当初、Fさんはリーダー的存在であったが、グループ内で孤立し始めており、代わりにGさんが小グループを形成していた。またほかのメンバーはグループ内のもめごとにかかわることがいやなのか、あまり話をしなくなり、グループ内の雰囲気はよくなかった。

- 1 グループのメンバーに対して活動の目的を明確にし、メンバー相互の協力を促す。
- 2 Gさんたちの小グループのメンバーに、もう少しお互い距離をとって行動するよう個別に話をした。
- 3 メンバー同士のもめごとに発展する可能性があるため、直接GさんとFさんと2人で話し合うよう指示した。
- 4 Fさんが孤立しつつあるので、Fさんと個別に話し合う機会を設け、現状をどのように感じているか話してもらい、必要があれば、グループに介入する。
- 5 現状では、トラブルには発展していないため、グループメンバーを注意深く観察し、トラブルが起こった際には、グループの主体性に任せて解決を図ることとした。

115. 事例を読んで、子ども家庭支援センターのH家庭支援専門相談員（社会福祉士）の支援によるメンバー間の変化として、最も適切なものを1つ選びなさい。

（事例）

H家庭支援専門相談員は、子育て中のひとり親家庭を支援するために、月1回「子育てを語る会」を1年間の予定で開催することにした。呼びかけに集まった6名のメンバーは、はじめは口が重かったが、2回目の今日は、「皆さんの話を聞いているうちに、自分も子育ての悩みを話せるようになった」という感想を口々に語っていた。

- 1 グループの主体性が生まれた。
- 2 波長合わせがなされた。
- 3 グループダイナミクスが働いた。
- 4 パラレルプロセスが形成された。
- 5 サブグループが形成された。

116. 事例を読んで、Jさんに対するKさんの対応として、適切なものを1つ選びなさい。

(事例)

特定相談支援事業所の相談支援専門員であるJさん(社会福祉士)は新たに担当することになった利用者のサービス等利用計画の作成について悩んでおり、先輩の相談支援専門員であるKさんに相談した。Kさんは、Jさんが「障害者総合支援法」の知識は十分であるが、今回の利用者が介護サービスも利用しているため、それに関連する介護保険制度の知識が不足していることに気が付いた。KさんはJさんに介護保険制度に関する資料を渡し、学習するよう声をかけた。また、介護保険制度に関する地域の学習会を紹介した。

- 1 セルフスーパービジョン
- 2 ピアスーパービジョン
- 3 グループスーパービジョン
- 4 ライブスーパービジョン
- 5 個別スーパービジョン

117. ソーシャルワークの記録に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 利用者の秘密保持という観点から、スーパービジョンで記録を活用することは望ましくない。
- 2 ケースカンファレンスには、利用者とのやり取りを逐語記録で提出する。
- 3 説明体による記録では、事実と、それに対するソーシャルワーカーの解釈を区別して記述する。
- 4 利用者の記録を開示する場合、本人に加えて、家族、または成年後見人の了解を必要とする。
- 5 記録は、利用者本人をはじめ多くの関係者が活用できるよう、閲覧しやすい環境に整備する。

118. 事例を読んで、現段階におけるL社会福祉士の対応として、適切なものを2つ選びなさい。

(事例)

Mさん(25歳、男性)は就職活動に失敗し、大学を卒業後フリーターをしばらく続けていたが、アルバイトを人間関係を理由に辞めてから2年間、実家に引きこもる生活をしてきた。知人の紹介で地域若者サポートステーションのことを知り、相談に来所した。L社会福祉士が話を聞くと、「自分のせいで家族(父、母、妹)がバラバラになってしまっている。自分のせいだとわかっているが、何か言われると親に暴力をふるってしまうこともある。就職はしたいが、失敗が怖い。」と話した。

- 1 失敗など気にせず、もう一度、働くことができるだろうから、一緒に公共職業安定所(ハローワーク)に行くように勧めた。
- 2 相談に来たことを肯定的に評価し、職業や生活の希望などについてキャリア・コンサルタントをまじえて話をした。
- 3 悪循環になっているので、家族と離れて生活するように助言した。
- 4 Mさんの家族に対する思いや暴力をふるってしまう状況について、もう少し詳しく語るよう話した。
- 5 家庭内暴力に発展しているため、カウンセリングが必要だと判断して、カウンセラーを紹介した。